

「寝返り、起き上がりの評価とハンドリング実技」

私たちは、日々の臨床において患者の動作の実用性を向上させることを生業としていますが、それは、患者の動作を正常動作に近づける、言わば自分自身の動作に近づけていくことだとも言えます。その上で、健常者の動作を理解することは重要なことではあるものの、『何となく、こんな感じじゃないかな？』で治療にあたってはいないでしょうか。これでは再現性のある治療結果には結びつかないと考えます。そこで、今回のナイトセミナーでは、改めて健常者の動作を確認するとともに、筋電図学的な解釈を含めて理解を深めていきたいと考えております。

寝返りや起き上がりの動作は、病気や怪我によりベッド上での生活から離脱するにあたって、必要不可欠な動作であると考えます。しかしながら、急性期病院や回復期病院において、離床を目的とした寝返りや起き上がりの改善を目標にしたものは少ないと言えます。寝返りや起き上がりは、対称位から非対称位を経由した動作、大きな支持基底面から小さい支持基底面への変化、分節的もしくは丸太様の動作などと形容されるものの、画一的ではなく個別性も高いことから、健常者における筋活動パターンなどを含めた報告は多くはありません。

今回のナイトセミナーでは、以下の内容について、参加者の皆さんにお伝えできればと考えております。

- 1) 健常者の寝返り、起き上がりを 3 つの特徴に分類し、動作様式の違いと筋電図測定結果の特徴を知り、私たちが普段の生活でおこなっている動作の解釈をおこないます。
- 2) 明日からの臨床で、すぐに役立てていけるようなハンドリングをおこないます。

『何となく、こんな感じじゃないかな？』であったことの戒めを込めて、参加者の皆さんにとって、有意義な時間となれるようにお伝えができればと考えております。